

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

食品産業に変化

2016年4月7日付『朝鮮新報』によれば、北朝鮮の食品産業に変化が見られ、国産食品の品質が低いというのは昔の話になったとしている。

同記事では、平壤市万景台区域にある百貨店「光復地区商業中心」で販売されている食品類が主に紹介され、同区域にある「クムコプ体育人総合食料工場」についてのレポートが掲載されている。

万景台賞国際マラソン開催－1000人以上の外国人ランナーも参加

2016年4月18日付『朝鮮新報』によれば、同月10日に万景台賞国際マラソンが開催され、北朝鮮国内の選手に加え、ナミビア、南アフリカ、ルワンダ、ザンビア、中国、ジンバブエ、ケニア、エチオピア、中国・台北の選手ら、オランダ、ドイツ、米国、カナダ、フランス、イギリス、オーストラリア、日本をはじめとする50余の国と地域から来た1000余人の市民ランナーが参加したとのことだ。

平壤市内で進む建設－新たな技術も導入

2016年5月6日付『朝鮮新報』によれば、平壤市内でさまざまな建設事業が進行中とのことである。70階建ての高層マンションなどをはじめとする住宅や公共施設からなる「黎明通り」の建設も始まり、2016年内の完成を目指して工事が急ピッチで行われているようだ。同紙によれば、北朝鮮で建設ラッシュが起きている要因として、(1)建設事業に対する国家的な投資が拡大していること、(2)軍・民が一体となったマンパワーの大きさ、(3)新たな建築工法の積極的導入などを挙げている。また最近、平壤市大同江区域にある平壤建築総合大学で「ビルディング・インフォメーション・モデリング(BIM)」の導入が始まったそうだ。

朝鮮労働党第7回大会開催

2016年5月7～10日付『労働新聞』によれば、同月6～9日に平壤市の4・25文化会館で朝鮮労働党第7回大会が開催された。

初日の6日には、金正恩第1書記による開会の辞と議題の決定((1)朝鮮労働党中央委員会の活動総括、(2)朝鮮労働党中央検査委員会の活動総括、(3)朝鮮労働党規約改正について、(4)金正恩第1書記を党の最高の首位に推挙することについて、(5)朝鮮労働党中央指導機関の選挙)、朝

鮮労働党中央委員会事業総括報告が行われた。7日には事業総括報告の続きと討論、8日には金正恩第1書記による「朝鮮労働党中央委員会の活動総括」に対する結語と第2議題である朝鮮労働党中央検査委員会の活動総括が行われ、決定書「朝鮮労働党中央委員会事業総括報告に対して」が採択された。9日には第3～5議題が議論された。また、決定書「朝鮮労働党規約改定に関する決定書」が採択された。新たな党規約では、党の最高の職責を朝鮮労働党委員長に新たに規定し、朝鮮労働党委員長は党を代表し、全党を導く党の最高指導者であるということについて定めた。これと関連し、党中央委員会書記職制を副委員長に、道・市・郡党委員会と基層党組織の責任書記、書記、副書記職制を委員長、副委員長に、党中央委員会書記局の名称を政務局に、道・市・郡党委員会書記処の名称を政務処と規制した。

また、決定書「敬愛する金正恩同志をわが党の最高位に推挙することについて」が採択された。これにより、金正恩第1書記は、朝鮮労働党委員長となった。

そのほか、大会では、党中央指導機関の選挙が行われ、第7期第1回全員会議の決定による、党中央委員会政治局常務委員会と政治局などに対する選挙結果が発表された。

第19回平壤春季国際商品展覧会開催

2016年5月23日付『朝鮮中央通信』によれば、同月23～26日、平壤の三大革命展示館で平壤春季国際商品展(見本市)が開催された。北朝鮮とニュージーランド、ドイツ、ロシア、ルーマニア、マレーシア、モンゴル、シンガポール、中国、カンボジア、タイ、オーストラリア、イラン、イタリア、インドネシア、ベトナム、キューバ、台湾の会社が参加した。

朝鮮労働党代表団が訪中－李洙暎中央委員会副委員長が習近平総書記と会談

2016年6月3日付『朝鮮新報』によれば、朝鮮労働党中央委員会の李洙暎副委員長を団長とする朝鮮労働党代表団が同年5月31日～6月2日まで中国を訪問した。代表団は同年6月1日、中国共産党中央委員会総書記である習近平国家主席と会談し、金正恩委員長から習主席へ送る口頭親書を伝えた。同年6月2日付『新華社』によれば、習近平主席は朝鮮労働党が代表団を派遣して第7回大会の状況を知らせてくれたことを歓迎しつつ、「これは中朝両党が重大な問題で戦略的意思疎通を行う伝統を体現しており、金正恩委員長と朝鮮労働党中央の両党両国関係への重視を示している」と述べた。

(ERINA調査研究部主任研究員 三村光弘)